

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》
 ・平成27年度より子ども子育て新制度が施行され、笠間市も支援制度に応じて認定制度を取り入れ保育料も市町村税の納税額に応じて個々の金額が設定されるなど、大きな変革期を迎えている。公立幼稚園は平成28年度から笠間が平成29年度から稲田が新たに認定こども園としてスタートすることが決定しているため、こども園に向けての条例・規則の作成が急がれる。
 ・非常勤職員が保育の中核を占めるため説明ができず、こども園に対しての市民の理解が不十分、不安を感じている利用者も多い。

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性 《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》
	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある
有効性評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》
	<input type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》
	<input type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある
一次評価結果	
全体総括(振り返り, 反省点)	
必要性	<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある
有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある
効率性	<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策
<input type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む)
<input type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名)
名称 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由
	資源配分	現状維持	

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 保護者や関係機関からの要望は高まり、通級を希望する幼児の数は増えてきている。

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性, 対象と意図の妥当性 《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	市内では唯一の幼児を対象とする通級教室であり、毎年通級希望者の数も増えていることから必要性は高いといえる。
	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民, または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	指導計画を作成し、幼児一人一人の実態に応じた指導を行っているため、幼児の育ちにつなげることができた。
有効性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し, 市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し, 個々の業務の効率化等, 業務委託や臨時雇用等)》	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	ことば及び情緒に何らかの心配や不安のある幼児にとって、個別の指導が受けられる場は必要である。
	一次評価結果	必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	全体総括(振り返り, 反省点) ことば及び情緒に何らかの心配や不安のある幼児にとって、さくらんぼ教室での個別の指導は重要な役割を果たしているため、目標は達成できた。

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 影響は大きく、問題の発生が予想される代替案や対策を採ることで対応できる 事業を休止、廃止した場合は障害のある幼児の園生活に支障が出る。
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む) 他に手段がない 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 市民のニーズが高い障害児事業は、今後も継続が望ましいと考える。
	資源配分	現状維持	

実施計画・事務事業評価共通調書

記入日 平成27年3月27日
 所属部課名 教育委員会学務課幼稚園

【PLAN】事務事業の計画 事務事業番号 3

事務事業名	預かり保育事業	評価区分	事務事業性質	政策的事業	後期基本計画	補助単独区分	所管省庁		
		評価事業	重要事務事業	—			市単独		
総合計画体系	政策	5 人が輝き、豊かな文化を創造・発信するまちづくり【教育・文化】	新規・継続	継続		補助率			
	小政策	1 次代を担う子どもを育みます	開始年度	終了年度					
	施策	1 幼児教育	事業期間	継続実施	単年度繰り返し		共催者・関係団体		
	小施策	1 幼児教育・保育体制の整備							
予算科目	会計	款	項	目	細目名	関連計画			
	一般	教育費	幼稚園費	幼稚園費	預かり保育事業	根拠法令	学校教育法	幼稚園教育要領	
						実施手法	補助金の有無	負担金の有無	
						直営	—	—	

1 【事務事業の全体概要及び背景】	2 【H26事業計画(主に担当者が行う業務内容及び手順)】	3 【年度目標】	4 【事業費の内容(決算額)】
・教育課程に係る教育時間外の時間に教育活動を行う。	・希望のより1年間の教育活動終了後(～17:00)預かり保育 ・家庭の事情等による教育活動後の臨時預かり保育(～17:00) ・夏季休業中、15日間の預かり保育(9:00～17:00)	・預かり保育児が不安がることのないよう、十分な配慮と温かい保育を心がける。	需用費 86千円
	H27事業計画	H28事業計画	H29事業計画
	同上	【稲田幼稚園】 同上	

5 事務事業の目的と手段			単位
目的	①対象(働きかける相手・もの)	全園児	④対象指標
	②事務事業の意図(どのようにしたいのか。どういう状態にしたいのか)	子育て支援の充実を図る。	⑤成果指標
手段	③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)	・教育活動後～17:00までの保育 ・教育活動後～17:00までの臨時預かり保育 ・夏季休業中の預かり保育(15日間)	⑥活動指標

9									
事業費及び指標の推移									
事業費		単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(計画)	28年度(計画)	29年度(計画)
投入コスト(インプット)	事業費	財源内訳	千円						
		国庫支出金	千円						
		県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
	一般財源	千円				58	86	86	43
	事業費計(ア)	千円	0	0	0	58	86	86	43
人件費	職員割合	人 千円	0	0	0	4.20	31,500	0	0
	時間外	千円							
	嘱託臨時	千円				1,054			
	他課の協力分	千円							
	人件費計(イ)	千円	0	0	0	32,554	0	0	0
	トータルコスト(ア)+(イ)	千円	0	0	0	32,612	86	86	43
指標区分		単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)
活動指標	年間保育日預かり保育						10	10	
	臨時預かり保育						370	370	
	夏季休業中預かり保育						10	10	
対象指標									
成果指標									

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》
働きながら幼稚園に預けている保護者も多いので、勤務の状況や定時に迎えに來られないような緊急時に使用する保護者は多い。

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性 評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》
	②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性 《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》
有効性 評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》
	④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》
効率性 評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》
	⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》
一次評価結果	
全体総括(振り返り, 反省点)	
必要性	<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある
有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある
効率性	<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策
影響は大きく、問題の発生が予想される代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む)
他に手段がない 他に手段がある(事務事業名・活動名)
名称 <input type="text"/>
他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由
	資源配分	現状維持	

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 特になし

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性 《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	幼稚園と家庭・地域との連携を密にすることは、幼児の健全な育成を図る上で必要である。
	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
有効性評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	幼稚園教育の理解を図ることや子育てについて情報交換の場として活用するためにも家庭教育学級・行事参加は大変有効である。
	<input type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	円滑なPTA事業運営ができたことで、家庭での意識を高め、幼児の健やかな成長を図ることができた。
	<input type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	
一次評価結果		全体総括(振り返り, 反省点)
必要性	<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	家庭教育学級や行事等を通して、子育てについての情報交換や意識を高め、保護者同士の交流も深めることができた。また、PTA役員・委員・保護者が園と連携協力し合い、円滑な行事・運営ができた。
有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
効率性	<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策
影響は大きく、問題の発生が予想される代替案や対策を採ることで対応できる
PTAの協力がなくては行事等の運営は難しくなるため、幼児の健やかな成長のためにも家庭と園との連携は必要である。
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む)
他に手段がない 他に手段がある(事務事業名・活動名)
名称 <input type="text"/>
他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 幼児の健やかな成長を助長するためにも家庭の教育力を高め、地域と連携したPTA活動をすることは大変重要であるため、今後も継続実施していく。
	資源配分	現状維持	

実施計画・事務事業評価共通調書

記入日 平成27年3月27日
所属部課名 教育委員会学務課幼稚園

【PLAN】事務事業の計画 事務事業番号 5

事務事業名	地域交流事業(笠間幼稚園)	評価区分	事務事業性質	政策的事業	後期基本計画重点視点	補助単独区分	所管省庁		
		評価事業	重要事務事業	—			市単独		
			総合計画実施計画	—					補助率
			新規・継続	継続					
総合計画体系	政策	5 人が輝き、豊かな文化を創造・発信するまちづくり【教育・文化】	開始年度	終了年度					
	小政策	1 次代を担う子どもを育みます	事業期間	継続実施	単年度繰り返し	共催者・関係団体			
	施策	1 幼児教育							
	小施策	3 保護者・地域との連携							
予算科目	会計	款	項	目	細目名	関連計画			
						根拠法令			
						実施手法	補助金の有無	負担金の有無	
						直営	—	—	

1 【事務事業の全体概要及び背景】	2 【H26事業計画(主に担当者が行う業務内容及び手順)】	3 【年度目標】	4 【事業費の内容(決算額)】
地域の方々との触れ合いを通して豊かな心や社会性を育む。地域の方々に保育活動への協力を図り、幼稚園に対する理解を得る。	・ボランティアグループによる絵本の読み聞かせを実施し、豊かな心を育む。 ・地域施設との交流会実施。 ・祖父母を招き昔遊びの会、地域の方とのゲートボール交流を実施。	・絵本の読み聞かせ(月1回) ・地域施設との交流会(年数回) ゲートボール交流(年1回)・	
	H27事業計画	H28事業計画	H29事業計画
	上記同様	上記同様	上記同様

5 事務事業の目的と手段				単位	
目的	①対象(働きかける相手・もの)	全園児	④対象指標	全園児	人
	②事務事業の意図(どのようにしたいのか。どういう状態にしたいのか)	地域の人々との触れ合いを通して豊かな心を育む。	⑤成果指標	地域の方との交流会 読み聞かせ 地域施設との交流会	回 回 回
手段	③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)	絵本の読み聞かせ、高齢者との交流会、地域施設との交流会	⑥活動指標	地域の方との交流会 読み聞かせ 地域施設との交流会	回 回 回

【DO】事務事業の実施

事業費及び指標の推移																		
事業費		単位	23年度(実績)		24年度(実績)		25年度(実績)		26年度(実績)		27年度(計画)		28年度(計画)		29年度(計画)			
投入コスト(インプット)	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円														
			県支出金	千円														
			地方債	千円														
			その他	千円														
			一般財源	千円														
	事業費計(ア)		千円	0		0		0		0		0		0		0		
人件費	職員割合	人 千円	0.27	2,025	0.27	2,025	0.21	1,575	0.270	2,025	0.270	2,025	0.270	2,025		0		
	時間外	千円																
	嘱託臨時	千円																
	他課の協力分	千円																
	人件費計(イ)		千円	2,025		2,025		1,575		2,025		2,025		2,025		0		
トータルコスト(ア)+(イ)		千円	2,025		2,025		1,575		2,025		2,025		2,025		0			
指標区分		単位	23年度(実績)		24年度(実績)		25年度(実績)		26年度(実績)		27年度(目標)		28年度(目標)		29年度(目標)			
活動指標	地域の方との交流会	回	4		7		9		8		8		8					
	読み聞かせ	回	15		16		15		16		16		16					
	地域施設との交流会	回	3		4		5		4				4					
対象指標	全園児	人	115		111		104		102		102		102					
成果指標	地域の方との交流会	回	4		7		9		7		8		8					
	読み聞かせ	回	15		16		15		16		16		16					
	地域施設との交流会	回	3		4		5		4				4					

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 特になし

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性 《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	地域の人々とのふれあいを通して幼児が楽しみながら、豊かな心や社会性が育まれるので、交流会を通しての幼稚園と地域との連携は必要不可欠である。
	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	<input type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	幼児の豊かな心や社会性がはぐくまれるので、地域の方々や高齢者との交流は有効である。
有効性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	<input type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	地域の方々に幼稚園についての理解をいただくとともに、交流を通して幼児が豊かな心を育むことができた。
	一次評価結果	必要性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	全体総括(振り返り、反省点) 地域との交流を通して地域に開かれた幼稚園作りが出来たとともに、幼児の豊かな心、社会性が育てられた。

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 影響は大きく、問題の発生が予想される代替案や対策を採ることで対応できる 地域の方との交流がなくなると、幼児の豊かな心の発達や、開かれた幼稚園づくりに支障がでる。
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む) 他に手段がない 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 社会性や豊かな心をはぐくむために地域との連携や交流は必要である。また、保育活動への理解や協力にもつながることからとても有効である。
	資源配分	現状維持	

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 特になし

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性 《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》
	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある
有効性評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》
	<input type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》
	<input type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある
一次評価結果	
全体総括(振り返り, 反省点)	
必要性	<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある
有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある
効率性	<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策
影響は大きく、問題の発生が予想される代替案や対策を採ることで対応できる
PTAの協力がなくては行事等の運営は難しく、また、家庭と幼稚園の連携がなくなると、幼児の健やかな成長に支障がでる。
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む)
他に手段がない 他に手段がある(事務事業名・活動名)
名称 <input type="text"/>
他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 幼児の健やかな成長のために、家庭・地域と連携した活発なPTA活動が必要である。今後も継続実施していく。
	資源配分	現状維持	

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 地域のボランティアや高齢者との交流事業をもっと増やしてほしいとの要望があった。
--

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性 《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	地域の高齢者や祖父母、ボランティアグループとの温かな触れ合いを通して、豊かな心が育っているので交流の機会が必要である。
	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	<input type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	様々な人とかかわることは感動体験や社会性を育むよい機会であるので有効である。
有効性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	<input type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	地域の方や祖父母と交流する中で様々な人とのかかわりを学び、いろいろな経験を積み重ねることで、豊かな心を育むことができた。また、地域の方の幼稚園理解を深めることができた。
	一次評価結果 必要性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	全体総括(振り返り、反省点) 地域の様々な人と交流を通して豊かな心を育むとともに、幼稚園を理解してもらうことができたので、目標は達成できた。	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案 ②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案 ④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 影響は大きく、問題の発生が予想される代替案や対策を採ることで対応できる 地域の方との交流がなくなると、幼児の豊かな心の発達や、開かれた幼稚園づくりに支障がでる。
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む) 他に手段がない 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 園児にとって豊かな心を育むために、地域の方や保護者との交流は必要であり、幼稚園を理解してもらう大切な機会でもあるので、継続が望ましい。
	資源配分	現状維持	